

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の名称

旧国鉄士幌線関連遺産を活用したまちづくり計画

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道河東郡上士幌町

## 3 地域再生計画の区域

北海道河東郡上士幌町の全域

## 4 地域再生計画の目標

上士幌町は、北海道十勝圏の北部、大雪山系の東山麓に位置する豊かな自然に恵まれた町で、ナイタイ高原牧場、ぬかびら源泉郷、熱気球、コンクリートアーチ橋梁群などの地域資源も多く所在している。

本町は、健康・環境・観光（新3K）をキーワードにした「イムノリゾート（※1）上士幌構想」を策定し、産官学が協働し、これらの豊富な地域資源を活かした健康と癒しの観光プログラムを開発するとともに、その効果を科学的に検証しながら、各々の地域資源について付加価値を高め、都市との共生と対流による地域活性化を進めている。

旧国鉄士幌線は、帯広駅から上士幌町十勝三股駅までの延長78.3キロで、帯広・上士幌間が大正14年に、上士幌・十勝三股間が昭和14年に開通し、途中、音更川の急峻な溪谷に沿って鉄道が敷かれたため多くの橋梁が造られたが、大規模なものはほとんどコンクリートアーチ橋として建設された。主に音更川上流の森林資源の開発に寄与したが、森林資源の減少とモータリゼーションの発達により、昭和53年に糠平・十勝三股間がバス転換され、昭和62年には全線が廃止された。

平成9年、国鉄精算事業団によるアーチ橋梁群解体撤去方針が決定される中、北海道産業考古学会主催による「上士幌鉄道アーチ橋と産業遺産の保存活用」と題したシンポジウムが地元糠平地区で開催された。これを契機に、地域住民のアーチ橋に関する理解が深まり、同年10月に地域住民を中心に「ひがし大雪アーチ橋を保存する会」が組織された。その後、保存する会と、行政、大学、専門家、民間会社の技術者とが連携し保存運動が展開され、全国から6,000人もの署名を集めるなど地道な保存運動が実を結び、平成10年10月、町が国鉄精算事業団から線路跡36.8ヘクタール、橋33基、1トンネルを取得し、保存が決定した。

平成11年、保存する会は役割を終え、保存から利活用へシフトした組織として「ひがし大雪アーチ橋友の会」が設立され、そこを中心としてアーチ橋を含む旧国鉄土幌線跡の利活用が展開されている。アーチ橋友の会は発足以来、遠足や写真展の開催、散策地図の作成、ホームページによるPR活動などを継続しているほか、平成14年にNPO法人の認証を受けてからは、民間等から助成を受けながら、旧幌加駅や糠平駅での鉄道、車掌車、信号機の復元、駅名標や解説板の設置やフォーラムの開催など、利活用のための基盤づくりを進めている。平成17年に旧糠平駅から十勝三股側の約8.5キロが環境省及び北海道により遊歩道（北海道長距離自然歩道「東大雪の道」）として整備された。また、現在までに、第3音更川橋梁など5基のアーチ橋と音更トンネルが国の登録有形文化財に指定され、「旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群」が北海道遺産（※2）に選定されているほか、平成20年度には第三音更川橋梁、旧幌加駅等10件の鉄道関連遺産が経済産業省の「近代化産業遺産群続33」に認定された。

近年は、このような保存や利活用のための地道な活動により、アーチ橋や線路跡を訪れる人たちも徐々に増えてきており、土幌線の歴史やアーチ橋を紹介している上士幌町鉄道資料館の年間入館者数も平成20年度は6,681人（平成10年度は2,965人）に増加した。

今後も、地域再生計画に基づく支援措置を活用して、行政とNPO法人等との協働により、募金による第三音更川橋梁の補修や環境整備を進め、旧国鉄土幌線関連遺産の文化財としての保存を図るとともに、観光資源として一層の利活用を進め、町の活性化を図りたいと考えている。

（目標1）PR、拠点整備等により交流人口の増加を目指す。

定量的な指標として上士幌町鉄道資料館入館者数を用いる。

項目	H20年度 (実績)	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
鉄道資料館 入館者数	6,681人	7,100人	7,500人	7,900人	8,300人	8,700人

（目標2）募金による第三音更川橋梁補修等費用の確保。

項目	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	合計
募金額	未実施	1,000万円	3,000万円	5,000万円	9,000万円

※募金は上士幌町鉄道資料館入館者以外からも集める。

#### ※1 イムノリゾート（IMMUNO RESORT）

「イムノリゾート」とは「免疫保養地」という考え方。免疫学はimmunology、免疫はimmunityで、その形容詞がImmune、Immunoである。アレルギーや花粉症は免疫バランスの偏りによって発症するが、「環

境」・「食」・「ストレス」のバランスを整えることによって、免疫バランスを是正し、それらを治療するという意味の造語。

## ※2 北海道遺産

北海道にある豊かな自然や、歴史や文化・生活・産業などの有形・無形の財産の中から次の世代に残しておきたいと北海道民が考える遺産。北海道固有の歴史や文化を観光や地域活性化に生かすため、2001年と04年に合わせて52件を選定した。北海道遺産構想を中心的に担う民間組織として「北海道遺産構想推進協議会」が設立され、選定を行っている。自然や建造物ばかりでなく、アイヌ語地名やサケの文化、北海道のラーメン、ジンギスカンなども選定されている。

## 5 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

上士幌町はNPO法人や関係機関等と協働し、旧国鉄士幌線関連遺産の保存や利活用を推進し、都市と農山村との共生・交流による地域活性化を図る。

### 5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 基本方針に基づく支援措置

官民パートナーシップ確立のための支援事業（内閣府）【B2001】

##### (1) 事業名

北海道遺産・第三音更川橋梁 保全及び活用事業

##### (2) 事業実施団体

NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会

##### (3) 事業概要

第三音更川橋梁は32mという最大径間を持つ大規模コンクリートアーチ橋で、旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群の中では文化財としての評価が最も高い。

しかし、他の橋梁同様、コンクリートの劣化等が進行していると考えられたことから、平成19年度、NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会が民間から助成を受け、健全度評価と維持管理方法を検討した。その結果、第三音更川橋梁にはコンクリートの剥離やひびわれが発生しており、構造物の維持・保全の観点から、今後何らかの処置が必要であるとされた。また、保全工事の内容と概算工事費も検討され、外

面の剥離のみを補修する場合は約 6,600 万円、全面的に補修する場合は約 8,900 万円の費用がかかるとされた。

このことを受け、本事業では、NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会と行政が協働して、第三音更川橋梁の文化遺産としての価値を世の中に広く訴えながら、補修費用の募金による確保を試みる。

支援事業終了後も保全推進会議で検討をしながら、平成23年度までの3年間で募金を集め（目標額 9,000 万円）、平成24年度から25年度で補修等を実施する。

これにより、士幌線現役時代の姿を再現し、第三音更川橋梁の鉄道観光資源としての役割を強化するとともに、鉄道資料館を中核施設とした旧国鉄士幌線関連遺産の拠点整備を進め、来訪者数を増やし、都市との共生・交流による地域活性化を図る。

(NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会が実施する事業)

- ・ 第三音更川橋梁保全推進会議の設立
- ・ 補修等費用の募金活動の展開

(上士幌町が実施する事業)

- ・ 指定寄付金制度を活用し募金を受け、基金等で管理
- ・ 関係機関との連絡調整

(4) 地域再生計画との関連

第三音更川橋梁は、旧国鉄士幌線関連遺産の中でも文化財的な評価が最も高い。また、国道273号に近いことから、現在までに、北海道開発局により駐車帯が整備され、上士幌町により説明看板が設置されている。

今後、本事業による第三音更川橋梁の保存と観光資源としての拠点整備が図られることにより、一層の交流人口の増加が期待できる。

### 5-3-2 独自の取組

(1) 旧国鉄士幌線関連遺産のホームページによるPR (NPO、町)

町内に所在するNPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会及び町の公式ホームページにより、コンクリートアーチ橋等旧国鉄士幌線関連遺産の情報発信を行う。

(2) 北海道長距離自然歩道の整備 (環境省、北海道)

平成17年度に一部が整備・供用されているが、今後も、供用部分及び新たなルートの整備を図る。

※事業主体：環境省 (国立公園内)、北海道 (国立公園以外)

(3) 十勝三股・糠平集団施設地区整備（環境省、町）

環境省による十勝三股及び糠平地区における中核施設等の整備計画が進められており、旧国鉄士幌線関連遺産との一体的な整備が計画されている。本事業において、町は主要動線（町道）の整備や中核施設の用地確保を実施する。

(4) 旧国鉄士幌線関連遺産を活用したツアー等の実施（NPO）

町内に所在するNPO法人ひがし大雪自然ガイドセンターにより、コンクリートアーチ橋梁群見学ツアーや旧士幌線跡を活用した自然ガイドツアーが実施されている。

(5) 案内標識等の整備（北海道開発局、町）

北海道開発局と町が協働し、コンクリートアーチ橋梁群の国道案内標識や駐車帯、遊歩道等の整備が実施されている。

(6) 旧国鉄士幌線関連遺産の利活用に関する関係機関・団体等による会議の開催（町）

環境省上士幌自然保護官事務所、上士幌町観光協会等旧国鉄士幌線関連遺産に関係する機関・団体等による会議を開催し、情報の共有と連携した利活用を進めている。

(7) 森のトロッコエコレールの運行（民間企業）

民間会社により、旧国鉄士幌線三の沢橋梁以北の線路跡を活用した「森のトロッコエコレール」が運行されている。

(8) トロッコ用レールの敷設等鉄道資料館周辺の整備（NPO）

NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会が、上士幌町鉄道資料館周辺の旧糠平駅跡において、車掌車及び信号機の復元やトロッコ用レールの敷設を行い、トロッコの試験運行等事業を実施している。

## 6 計画期間

認定の日～平成26年3月末まで（5年間）

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

事業期間中に実施された事業による、都市との共生・交流による地域活性化については、4に示した具体的指標に基づき評価し、検証するものとする。

## 8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし